

幼児の動きのリズム

「自由表現」に関する考察

目次

- 一、幼児の日常の遊びと自由表現
- 二、幼稚園でカリキュムの中で「動きのリズム」として自由表現をとり上げる場合
 - (1) 幼児が表現体になり切って自由に独自の動きの表現を楽しんでするのに適したテーマ
 - (2) 以上のテーマで断片的な動きを幼児の中から引き出す為の導入
 - (3) 以上のテーマによる断片的な動きの追求とほり下げ
- 三、即興的な瞬間的なその場かがりの動きの自由表現を更に発展させ幼児の中から創り出された動きの表現として或る程度固定させ、構成し、まとめることについて
- 四、伴奏のしかた
- 五、むすび

一、幼児の日常の遊びと自由表現

幼児は日常の遊びで、いかに動きの自由表現をしているかについて観察しますと、大人と違って、すぐ表現体になれるという特性からも、非常に多くこれをしていることがわかります。昭和二二年四月より四一年一月までの約二〇年間の、幼稚園（東京世田谷区ゆかり文化

幼稚園、川崎市東住吉幼稚園）に於ける私の幼児保育の体験から、次の様な場合に、幼児は、自然に動きの自由表現をしていることが多いことが観察されました。

(1) ごっこ遊びの中から

イ ままごと おうちごっこ

（お父さん お母さん 赤ちゃん お姉さん お兄さん
お客様 お店屋さん 御用聞き など）

ロ 西部劇ごっこ

ハ インディアンごっこ

（インディアン カウボーイ）

ニ チャンバラごっこ

ホ 忍者ごっこ

ヘ 鉄人ごっこ

ト 汽車ごっこ

（運転手 車掌 お客 駅弁売り 線路工夫 フミキリ番

藤 田 妙 子

など)

チ ロケットごっこ 宇宙船ごっこ

リ 郵便やごっこ

ヌ どうぶつごっこ

(いろいろな動物になって遊ぶ)

その他、その時によって、いろいろなごっこ遊びをしながら、幼児はいきいきと自分の役割りを表現し、だんだん筋を運んで行き、劇遊びの様にもなって行きます、

(2) 音楽をきいて、何となくそれに陶酔して、即興的におどる

レコードなどで、明るいろズミカルな曲など聞いている時、それが自由遊びの時だったりすると、一人又は数人で、いい気分音楽に合わせておどっていることがあります。これは大人が見ていることを知るとやめたりすることが多いのですが、時にはさらにはっきりした表現意欲をもって、バレエごっこをしたり、大人のおどりのまねをしたりしていることもあります。

二、幼稚園でカリキュラムの中で「動きのリズ

ム」として自由表現をとり上げる場合

幼児の日常の遊びの中に自由表現がこの様にごく自然に存在していることは、これをカリキュラムにとり入れやすいことを物語っています。体の動きという素材を用いて幼児の表現力や創造性を育てるという意味で、この「動きの自由表現」の指導について研究して見まし

た。

(1) 幼児が表現体になり切って自由に独自の動きの表現を楽しんでするのに適したテーマ

まず幼児の体、手足をそのまま用いて動き、形の上からも表現体になり易い題材を次の様に分類しました。

イ 動物

ネコ イヌ ウサギ リス ウマ ウシ 蝶 蜂 トンボ
バ
ツタ カマキリ カブト虫 クモ イモムシ 尺トリ虫 蛙
ワニ ヘビ

魚—いろいろな種類

クジラ タコ カニ エビ

小鳥—雀 燕 カナリヤ ナド

ワシ 雁 ペンギン ダチョウ ニワトリ アヒル

虎 象 ライオン ヒョウ 狼 熊 キツネ 狸 キリン

サル シカ ヒツジ コウモリ 其他

幼児は動物が好きなので自分の興味のある動物になることをよろこびます。その表現も大人の概念よりはるかに新鮮で、独創性が見出されます。又動物園などについてその動物を見たあとの表現は、その以前とくらべて驚く程いきいきしています

ロ 人間の職業動作その他

おまわりさん 運転手 車掌 ロケットや飛行機の操縦士、舟をこぐ人、船長、水夫、兵士、さむらい、忍者、インディア

ン、店や(魚や、花や、八百やなど)、漁夫、狩人、道路工夫、洗濯をする人、そうじをする人、医者、先生、看護婦、王様、王女様、王子様、家来、小人、大男、鬼、魔法つかい、怪物、など

これ等は幼児が日常のままごとやごっこ遊びの中でいつもやっている題材ですから、カリキュラムの中でとり上げる時も、日常の遊びの様子を把握して更にそれを面白く構成してテーマとして提出すると幼児はよろこんでいつまでも楽しんで表現を続け、発展させます。

ハ 人間の日常動作と感情表現

押す 引っぱる 大きくのびる 小さくちぢまる ビョンビョ
ンはねる 歩く 這って歩く 転がる 走る スキップする
ぶるぶるふるえる 疲れてとぼとぼと歩く 手さぐりで歩く
ドシンドシンと歩く いばって歩く そっと忍んで歩く こっ
そり様子をうかがう かくれる さがす かわいがる おどか
す こわがる よろこぶ おこる 襲いかかる 防ぐ おなか
がすいた様な動作 重いものに押しつけられた動作 上から押
さえる動作 誘う動作 誘われる動作 その他

人間の日常動作や感情動作をまねすることは次第に劇遊びに発展する要素にもなります。これは自由表現から発展した総合表現としての劇遊びで、「音楽リズム」の領域に含まれるものです。

ニ 植物 その他の自然

花―チューリップ 水蓮 桜 藤 タンポポ スミレ ヒマワ
リ ススキ 萩 ダリア 菊 釣鐘草 その他 空想の花 擬
人化された花など

幼児の身近かなものという意味で、最初にチューリップというテーマを与えてしまうと、次から花といえどチューリップの表現しか出来なくなることが多いので、このチューリップというテーマははじめに与えない方がいいと思います。又、手のひらで花を表現することは大人のよくする事です、この概念も幼児の自由な創造性を阻んでいるようです。むしろタンポポや水蓮やスキの様に個性的な花を一人又は大ぜいで表現する方がはじめの教材としては適当です。(はじめは体や手足をそのまま使える動物や人間の表現の方がやり易いようです。)

草 葉 稲 麦 木 実

石 山 波 火 星 月 太陽 風 雨 雪 あられ 嵐
かげろう 雷 雨だれ つらら 氷 など

これ等は完全な模倣表現出来ないのは当然ですが、幼児は大人が考えるよりは容易にそのものの本質をつかみ、その特徴の模倣をすることによって、この様なテーマでも大胆に表現することが出来ます。只、時によって、大人から与えられた浅薄な概念で、感激のない陳腐な表現をすることがあるので、そんな時はもう一度実物を把握し直すようにさせなければなりません。

この種のテーマは比較的表現しにくいテーマですが、必ずしも

表現出来ないものではなく、まだ、幼児にとって興味のないテーマだと決められるわけでもありません。

ホ 人工物 機械など

自動車 汽車 舟 宇宙船 電車 ロケット ミサイル 飛行機 時計 歯車 ベルトコンベヤー ローラー ジェットコースター シーソー

洗濯機 洗濯物 石けん

家 燈台 おもちゃ 人形

花火 アイスクリーム お菓子

その他

乗りものは幼児が好むものですから、自由表現がしやすそうに思われますが、実際には幼児は「車に乗る人」「運転する人」などを表現することの方が自然に出来ます。もちろん汽車ごっここの時など、汽車になって走りますが、この表現にはあまり変化はなく、個性の少ない表現になります。むしろこの場合「はやく動いたりおそく動いたりする」「音楽のリズムにあわせて動く」「大ぜい揃って動く」などの方に目的と重点をおく方が適当でしょう。

その他の機械や人工物の中には、意外と面白い表現が生れるものもあります。花火にしても 線香花火 ネズミ花火、大きな打ち上げ花火など 五才児位になると殊に意欲的に個性のある、しかも集団的にまとまった表現をも創り出すことがしばしばあります。

(2) 以上のテーマで断片的な動きを幼児の中から引き出すための導

入

自由表現をすることになってからは、あまり苦労はしないのですが、はじめのうちはこの導入ということについて、いろいろ試みます。とにかくどんな動きでもためらわずに思うまま動けるように、誘導する事が肝要で、「上手に表現する」ことより「表現することをためらわない」ことに主眼点をおきます。

幼児が動きの表現をしたくなるように誘導する方法は、その時の状態によって一概にきめられませんが、大体次のように分類出来ます。

イ 観察から

たとえばツバメの表現をする場合でも実際にツバメの飛ぶ様子や、巣の状態 子ツバメの様子など見た後の幼児の動きの表現は非常にいきいきとして 独創的です。

ロ 図鑑や絵などを好んで見た後の表現

子供たちの興味のある題材なら 図鑑や絵を見ても、興味をもって語り合ったり 追求したり、考えたりするので、その中より強い特徴や印象を強調して動く様に助言します。

ハ 物語りから

その物語りの中に出てくるものになり切って、各自の役割りによって、独創的な、しかし相手と調和をとった動きが即興的に、そして意欲的に生まれて来て、劇あそびの様に発展させられます。

ニ 音楽から

そのテーマから来る印象に合った音楽を選び、それを聞かせながら、その音楽のリズムの中で、表現しようとするテーマの特徴を動きであらわす様に誘導します。この場合かならずしも音楽のリズムに動きのリズムをあわせなくてもよいので、音楽はムード作りという風に利用します。

(3) 以上のテーマによる断片的な動きの追求とほり下げ

幼児の動きが単調すぎるような場合、時には、ちょっとした誘導で、更にその動きに変化と深まりが出てくることがあります。即ち、そのテーマをもう一度見なおすこと、その動きについて考えなおす様に助言を与え、感興を新たにさせます。或は小道具を用いたり、ちょっとしたかぶりものを使わせたり、床や黒板に絵をかいたり（例えば蝶の表現をする時、床に大きな花をチョークで描いておいて、そのまわりをみんなでひらひら飛んだり、時々ミツを吸いに集まるようにさせたりします）ふん囲気をもり上げると効果があります。

又、単調な動きに対して少しずつその表現に性格付けをして見ると変化のある動きが生まれます。

只、これ等の指導の時、指導者が幼児と共に動く場合、あまり先に立って動きすぎると、幼児はそのまねをしがちですから、なるべく幼児の中から独自の表現が生まれるように、助言することによって動きを引き出し、動きが生まれはじめたら幼児の中に入って一緒に動き、子どもの心になって、表現体になり切った表現を、しかも大人のせい

一ぱいの大きな動きですることがよい指導といえましょう。

三、即興的な、瞬間的な、その場合かぎりの動きの自由表現を更に発展させ、幼児の中から創り出された動きの表現としてある程度固定させ、構成し、まとめることについて

動きの自由表現は、まず幼児の心に表現しようという感興や熱意がたかまった時にこそ、いきいきした独創的な表現がうまれるので、同じテーマを何回も同じ様な与え方をすれば、幼児の感興もうすれ、表現がマンネリズムになり、いきいきした動きが死んでしまいます。何回も同じことをやれば二度目からあとは文字通り二番せんじで、最初の時の発達さや、鋭さがなくなり、類形的な動きや、惰性的な動きばかりになってしまいます。自由表現とはあくまで自由で、即興的な瞬間的な、その場かぎりの幼児の個々の独創的な動きのほとばしりにあることに意義があります。

しかし、この段階から更に発展して、生み出された自由な動きを、その場限りに捨ててしまわずに、幼児の中から創り出された動きの表現として、固定させ、まとめることは必然的に要求されることであり、幼児の無心な表現を如何に損なわずにそこに固定させるかは、指導者にとって重大な、且つなかなか難かしい仕事であります。この段階になると、もはや純粹に「自由表現」とはいわず「創作」といった方が適當です。

(1) 追求するテーマに性格付けと状況の想定を加え、動きに幅と深さを与え動きを整理する。

大ぜいの子供たちが思い思いの動きをしている中にも、おのずから一つの方向や性格があらわれて来ます。それを話し合って更に強調して動く様にさせ、その上状況の想定をつけ加えますと動きの表現が一つの目的に向って集中します。例えば、ウサギの表現をする時でも、ただビョンビョンはねるだけでなく「じっとして耳だけビクビクさせて聞き耳を立てている」とか「敵に追われて、全速力で逃げる」とか「山を登る」とかの想定を与えて行きます。その様にしてもり上げた一連の動きに、時間的な構成を与え、動きの順序をつけて整理すると、一応きまった動きの表現の作品らしいものにとまります。又ただ楽しくビョンビョンはねるだけとしても、その跳び方の方向や、強弱、速度、それに休止の時のくみ入れ方、跳ねる以外の動作のとり入れ具合などを「楽しんでいるウサギ」というものを表現することを目ざして構成するだけでも、作品としてまともになります。これ等の場合、あくまでも幼児自身から自然に自由に生み出された感覚的な動きがモチーフとなり、それに更に幼児によって肉づけされたものが主体でなければならぬ事は当然であり、決して大人のいわゆる「振り付け」であってはならない事は勿論であります。

(2) 同じ種類のテーマを集めて、組曲風に構成し、それぞれのテーマについての動きを考える。

例 おもちゃ箱

イ アヤツリ人形

ロ おもちゃの兵隊

ハ フランス人形

ニ ロボット

ホ ゼンマイ仕掛けのシンバルを打つサル

ヘ ぬいぐるみのクマ

ト ビニールの犬

チ おもちゃ達の大行進

おもちゃの兵隊がカタカタと並んで歩いたり、ロボットの人形がギリギリと歯車の音をさせながら手を上げたり、フランス人形がパレーの様に爪先で立っておどったり、ゼンマイ仕掛けのサルがシンバシンとシンバルを叩いたり、ぬいぐるみのクマがのそのそ歩き、アヤツリ人形はビョンビョン手足を振ったり、色々の動作が子供たちの中から生れて来たら、それをほり下げ、整理し、一つ一つを小さなまとめたものを、今度は全体の構成の中に入れます。まず、おもちゃ箱の中でおもちゃたちが眠っているま夜中、時計がボンボンと一二時をうつと、アヤツリ人形が、ビョコンと起き上がる。箱からとび出しておどり始める。そのうちにおもちゃの兵隊がラッパを吹いておき上がり行進をはじめ、フランス人形がきれいにクルクルおどり出す。次にロボットがギリギリビューンと機械の音をさせながら歩き出し、ゼンマイ仕掛けのサルは賑やかにシンバル

を叩き始める。ぬいぐるみのクマはそこらをそのそ歩きまわり大さわぎの中で、おもちゃの兵隊の一人がまだ箱にのこっているピニールの犬をみつめて引っぱり出す。フウフウ空気を入れてふくらます。犬はだんだんふくれて来て起き上り、みんな大行進を始める。そのうちどこかでにわとりが鳴くと、おもちゃたちは、あわてて箱の中にもどる。

こんな構成にしてそれぞれの動きや性格付けやちょっとしたギャグなどをおりまぜて、子供たちと話し合いながら創り上げます。そして音楽又はナレーション、又は打楽器などで伴奏を決めると、もはやその場かぎりで消えてしまう表現ではなく、創作として一応固定されたものになります。

(3) そのものとそれに対するものをつけ足して、やや筋のある劇あそび風のまとまりに発展させる。

例 コガネ虫とつり鐘草

コガネ虫―カナブンの動きを自由に即興的におどっている中から、カカトで歩く、手をバタバタさせる。かがんだりころがったりする。など色々な断片的な動きをとり上げ、それに多少カナブンの形などからくるコミックな味をつけ加えて、カナブンがビックリした動作とか、何かいたずらをしようとして来る動きなどを生み出します。そして、それにつり鐘草という要素をもう一枚加えて、「つり鐘草がやさしく風にゆれて、美しく咲いている所へコガネ虫が遊びに来て、つり鐘草をみんなでゆすっていたずらをした。つり

鐘草がカランコロンと大きな音を立てたので、コガネ虫はびっくりして、ひっくりかえって逃げていった。」などと筋をつけます。

この方法は子供たちが面白がって表現体になり切った思い切った動きをするのに効果的です。この場合の注意として、大人の概念でありきたりの筋をつけたたりして感激のない概念のら列に構成しない様に気をつけないと、幼児の心から遠くなってしまいます。いわゆるよい子の劇あそび風の筋になっても、幼児の共鳴は得られません。何よりその表現しようとするもの、すなわちこの例ではカナブンのせわしい動きやコミックな感じ、つり鐘草のなよなよしたしなやかなゆれる感じそのものを追求することが主眼点です。

又、更にいくつかの異った表現するテーマを組み合わせ、劇あそび的な運びにすることも幼児の興味をひきます。

又、既成の「子鹿のバンビ」のお話や「アリとキリギリス」のお話などを舞踊劇風に創作して行く事も、やって見れば案外容易に幼児の共鳴を呼び、思わぬもり上がりや充実した表現が生まれてくることがあります。

(4) 幼児の中から生まれた詩やお話をもとにして動きの作品にまとめる。

例 花のケンカ（幼児のおはなし）

ハナガオコッタノ

トナリノハナガ

ドウシタノotte キイタラ

オコッタノ

トナリノハナモ オコッタノ

マタ ソノトナリノハナモ

スワッテイルハナモ

ハジッコノ ハナモ

ミンナ オコッタノ

コワイカオシテ

ケンカ ヲ ハジメタノ……

チヨウチヨガ トンデキタノ

チヨウチヨハ

ハナガ オコッテルノデ

ムコウニイッテ シマッタノ

ソレデ ハナハ ガッカリシテ

ケンカ ヲ ヤメタノ

子供たちはみんな花になったつもりで、立ったり坐ったりしています。この時指導者が手で花の形を作る型をちょっとでも与えてしまうと、表現が概念化し、スケールも小さくなる上に、幼児の個性がなくなるので、この形は避けるようにさせます。子供は只立っているだけでも、自分が花になっているのだと思うことによって、本当に生きた花を全身で表現します。ナレーションにあわせて、又ナレーションにタンブリンやウッドブロックなどの打楽器をあわせ

用いた伴奏や誘導によって、各々の花はゲンコツを突き出したり、ふりまわしたり、足をふみ鳴らしたりして、花のケンカを表現します。そこへ蝶になってとんできた子供がひらひらと一まわりして行ってしまうと、花たちはがっかりしてそれを見送る。など面白い動きの表現が自然に出て来ます。幼児のおはなしや詩を幼児自身で動きで表現する事は、大人の考え及ばない新鮮で自然な動きがスムーズに生まれることが多い様です。

(5) 以上のいくつかの方法で自由表現をほり下げ、創作活動として追求して行く過程において感じられた事

イ ふつうの決められた振りのある童謡などの動きのリズムでは、女の子がよろこんでする場合が多く、男の子はどちらかというとあまり好まない傾向にあるが、自由表現や創作は男の子が殊に興味をもって活潑に独創的に動くことが多い。

ロ どの子供も落伍しないで、いきいきと動きの表現をする様にさせるには、必らず集団と集団のやりとりである様に構成する必要がある。これはスターシステムにもならず、幼稚園などでは最も好ましい行き方である。

ハ 指導者もその中の一員として、役をうけもったりして、子供たちと一緒にせい一ぱいおどると全体の動きの表現が一層活気づきもり上がる。

四、伴奏のしかた

動きの自由表現に伴奏をつける場合、はじめに、既成の音楽を与えてしまうと、動きがそれに束縛され純粹に幼児の個々の創造性を引き出すことが出来にくいので、まず、無伴奏で、動きそのものを追求することが先決です。

その後、その動きを一層もり上げ、誘導するために、伴奏などいろいろの方法をとります。

(1) ナレーションや擬音によって誘導や伴奏をする方法

ナレーションについては、前述の例でもとり上げましたが、その他の擬音を入れたり、セリフなどを入れて進行させる方法は、ムード作りにもなり、手っとり早いしかも効果的な方法です。

(2) 簡易リズム打楽器による伴奏

幼児たちの中から生まれた動きが、比較的、速度や、リズムや、全体の感じなど似かよっている場合とか、又は一人で自由表現をして動いている場合など、その動きに合わせて、タンブリンや太鼓其の他の簡易リズム打楽器を打ち鳴らして、動きを誘導し、もり上げることが出来ます。

(3) ピアノやオルガンの即興演奏による伴奏法

幼児が一人で動いて自由表現をする時は、その動きを見ながら、それにあたりリズムでピアノやオルガンを即興的に弾いて伴奏し、もり上げて行きます。又大ぜいで自由におどっている時は、一人一

人の動きが、速度やリズムに於ても異っているので、全体のムード作りをする様な気持で、即興演奏で伴奏します。又その伴奏も必ずしも、いわゆるメロディーや和音というように概念的に考えず、ピアノを打楽器的に用いる方法も効果的です。

例えば、象の歩く様子などピアノの低音をベダルを踏んだまま、握りこぶしでズシン、ズシンと叩いたり、ころがり落ちる表現などは、グリッサンドで高い音から低い方へ一気に流したり、その他、その場合に適した方法で自由に弾くことです。

そして又、動きの自由表現がやや統一され、創作としてまとまりかけた時など、ピアノなどで伴奏すると、幼児の気持をもり上げ、動きに深みや巾を与えることに役立ちます。

(4) 幼児の動きのリズムや表現内容のムードにあった曲のレコードを適当に用いる方法

幼児の表現しようとする題材の性格や動きの感じにあった曲のレコードを探し、場合によっては、部分的に用いたり、幾曲も組み合わせたり、つないだりして用いることもあります。うまくそのテーマにあった曲であれば、動きもいきいきとして来ます。

(5) 以上を総合した伴奏

ナレーションや擬音やセリフによる方法とリズム打楽器による方法及びピアノやオルガンなどの楽器による即興演奏、又はレコードによる伴奏などをくみ合わせて構成することも全来ます。少しこみ入った劇あそび風の作品になった場合に適していると思います。そ

の場合、テープに録音して、つなぎ合わせたりして用いることは保育の現場の事情に適した方法とされます。

(6) 幼児の動きの生み出しと同時に、その場で専門の作曲家によって、曲がつけられてゆく方法

これは理想であって、なかなか実際に専門の作曲家にその場で作曲して貰うことは難しいことです。しかしそういう事が可能なら非常によいと思います。勿論幼児のことをよく知っていて、作曲の技術も勝れた人ならば一層素晴らしいことでしょう。その他の場合はなまじ保育者など作曲の素人がいい加減な作曲をすることは避けるべきです。即興伴奏ならまだしもですが、一応作品として作曲するためには、和声その他の本格的な勉強が必要です。素人が下手に手を出すと、音楽的にまちがったものを世に残すことにもなり、子供たちの耳をも損なうことになります。

五、むすび

幼児の動きの自由表現は、幼児の表現意欲のたかまりが、瞬間的に、自由な動きになって創り出されるもので、それを再現させることは、なかなか出来ないのが普通です。それで、これを幼児の中から生み出された動きの表現の作品としてある程度固定したものにすることは、幼児自身の「表現する」という自覚を強め、創造性を更にたかめる上にも有意義なことです。最初子どもたちの中からほとぼり出た自由ないきいきした動きを大切にして、動きの表現の大まかな線を固

定し、幼児たちの中から生み出された動きの表現活動の作品としてまとめられるわけです。

この段階になれば、もはや即興的な「自由表現」ではなく「創作」又は「作品」となり、何回でもくり返して、幼児によって楽しく表現したり、又表現されるものを見たりすることも出来ますし、その上の追求や評価などにも及ぶことになります。